

# 会 議 録

## 1 会議名

令和元年度第4回高土区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 地域活動支援事業について（公開）

① 採択結果の報告

② 課題の洗い出し

### (2) 自主的審議事項について（公開）

## 3 開催日時

令和元年7月9日（火）午後6時30分から午後8時10分まで

## 4 開催場所

高土地区公民館 2階 中会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、小林トシ子、建入一夫

日向こずえ、細谷八重子、横川英男、横山とも子（欠席4人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

## 8 発言の内容（要旨）

### 【田中主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【飯野会長】

・挨拶

### 【田中主事】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

**【飯野会長】**

会議録の確認：小林委員

次第3 議題「(1) 地域活動支援事業について」の「① 採択結果の報告」と「② 課題の洗い出し」について事務局に説明を求める。

**【田中主事】**

・資料1・2に基づき説明

**【飯野会長】**

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

協議に入る。採択の結果について、今年度は高土区の予算額 490 万円に対して提案希望額が 31 万 4,000 円超過していたため、一部事業を減額もしくは不採択とした。今年度の減額方法としては高土区の予算額に収まる範囲で上位の事業から満額採択とした。また、今年度は基本審査判定の取り扱いを変更し、不適合とした場合も平均点に反映されるようにした。本日の協議会では今年度の審査方法も踏まえ、来年度以降に活かしていくことや反省点などを意見交換していく。これについて意見を求める。自分としては、平均点ではなく合計点とした方が審査しやすいと考えている。合計を委員の人数で割った数字が平均点となるため、合計点の方が分かり易いと思う。

**【田中主事】**

他の区では提案団体の代表者は審査に参加できないとしている区もある。その場合、事業によって審査する委員の人数が変わるため、他の事業との点数に差が生じることになるため、平均点としている。しかし、高土区ではこのようなルールはないため、平均点と合計点のどちらとしても問題はない。

**【飯野会長】**

意見を求める。

**【建入委員】**

平均点と合計点では差が出るのか。順位としては変わらないように思う。

**【田中主事】**

平均点は小数点第2位で切り捨てているため、大きな変化はない。

**【建入委員】**

どちらも変わらないように思う。

**【飯野会長】**

自分としては合計点の方が分かり易いように思う。

**【青木副会長】**

今年度は順位を基に、11事業が提案どおり採択された。採点の中で不適合とついた事業もあり、審査は比較的スムーズに進んだように思う。個人的には継続事業に対して高い評価を付けてしまった部分もあるが、審査としては個々の事業に対して、詳細な検討をしなかったように思っており反省している。昨年度と同様であるため良いではなく個々の事業の細かい部分を見て、市の税金を使うにあたり適切かをしっかりと検討したのか疑問が残っている。今年度の採択結果に関しては、今後心配を残すように思っている。

**【飯野会長】**

他に意見はあるか。

(発言なし)

今年度に限らずこれまで提案された事業の中でも、地域活動支援事業に該当しないと思う事業については意見を出し合い、減額または不採択とした事業もあったと思う。今年度に関しては、そこまで踏み込まずトータルで採択と不採択をはっきりとさせた。しかし、委員自身が事業の細部までを見て、事業自体は良くても費目の中で本当に必要かを細かく判断すべきだったように思っている。決定してしまった話ではあるが、採択となった事業の中でも個人負担とすべき項目等もあったと思う。委員自身が提案される事業に対して勉強する必要があると考えている。

意見が出ないため、順番に意見・感想を聞いていく。小林委員から順に意見を求める。

**【建入委員】**

減額方法等について、次年度の採択方針決定に向けて発言するということか。

**【飯野会長】**

委員自身の意見や感想を聞きたいということである。

**【小林委員】**

自分はヒアリングの当日に欠席したが、不採択となった「土-15」については保険が6月に切れてしまうため、更新することができなかったと聞いている。一部でも補助

することは出来なかったのかと思っている。しかし、提案者自身もルーズに提出したことを簡単に考えていたため、それは如何なものかと思っている。正直言って本当にやる気があれば、しっかりとした意見を持って取り組むべきである。次に採択された「士-11」について確認であるが、金額的に高額だが今年度のみの内容なのか。

**【飯野会長】**

提案の内容としては、今年度は樹木医による診断を受け今後の対応等について助言を得るとの話であった。次年度以降については診断結果によるため何とも言えない。

**【小林委員】**

平均点と合計点については、自分も合計点の方が良いと思う。

**【建入委員】**

結果としてあまり変わらないが、分かり易いのは合計点だということか。

**【小林委員】**

そうである。

**【建入委員】**

減額方法をきっちりと決めたのであれば、ふらつかない方が良いと思っている。今年度はこの方法だが、次年度はこのやり方という決め方はなしだと考えている。そのため、明記するものはしっかりと明記をし、この考え方で決定すると最初に周知した方が良いと思っている。

**【日向委員】**

自分も建入委員の意見に賛成である。減額方法はしっかりと決定した方が良いと思っている。今年度のヒアリング時に1番気になったのは、不採択となった「士-15」の提案者のやる気の無さである。「地域活動支援事業に提案して良いものか」とまで言っていたように思う。提案して良いか分からないのであれば提案しないでほしいと思った。それだけが原因で不採択となった訳ではなく、他にも問題はあったと思う。今年度は採点結果の順位に応じて採択・不採択事業を決定したが、次年度以降は全ての事業を採択とし、一部を減額しながら金額を調整することは十分にあり得ることである。そのため今年度の決定方法には非常に賛成である。減額して全ての事業を採択としても、減額されたことによって実施できない事業もあると思う。今回採択された「士-11」がそうだと思う。今年度の審査方法でなければ、次期以降の協議会委員が大変になると思う。

#### 【小林委員】

今年度は提案件数が多かったため今回の審査方法でも良かったが、もし提案件数が少なく予算的にも余裕があった場合、今年度不採択となった事業は再び提案することは可能なのか。1度でも不採択となった事業は今後提案することはできないのか。

#### 【日向委員】

1度不採択となった事業であっても、配分予算に達していなければ満額採択となってしまうのではないか。

#### 【田中主事】

今年度は、事業内容が不採択理由となっていないため、提案は可能である。

#### 【青木副会長】

今年度は配分予算額を超過していたため、減額・不採択となった事業があった。しかし、もう少し個別に精査していたら不必要な項目を減額できたかもしれない。減額していくことで、不採択となった下位の事業にも配分することができた可能性もある。また、「士-15」は自分も日向委員と同様になぜ提案したのかと疑問に思った反面、他の不採択となった事業では地域内外からの参加者もあるため、個人的には良い内容だと思っており、次年度に期待したいと考えている提案もある。審査方法としては、内容を厳密に精査し税金の無駄遣いとならぬよう判断して行くべきと考えている。

#### 【横川委員】

本当に提案された事業が必要かを判断することについては、各委員は考えた上で採点していると思う。それを更に掘り下げ内容を精査しては1事業の審査にかなりの時間を要してしまう。採点結果は各委員が判断した結果であると考えている。また提案する団体の大変さを考えると、全ての事業を採択したい気持ちはある。しかし、それをしてしまうと、本当に必要な部分が削られてしまう。そのため、不採択となった団体はその結果を踏まえ、次はどうすべきかを考えて努力すると思う。各委員が採点した方法・結果を信頼し、審査していけば良いと考えている。今年度、不採択となった団体には、次年度に再チャレンジしてほしいと思っている。

#### 【横山委員】

各団体は自分たちの活動に必要性を感じ申請している。横川委員の発言にもあったように、今年度に不採択となった提案でも本当に意味のある事業であれば、今年度の内容に更に価値のあるものを付け加え、再提案することも1つの方法であると思う。

逆に次年度以降、提案しないと判断することも1つの方法であると思う。今年度の結果を見て、新規の提案以外は長年継続的に提案されている事業も多いということは自主的審議が進んでいない結果であると思っている。「士-12」のキャンドルイベント以外は、ほぼ継続的に提案されている事業ばかりである。キャンドルイベントに続く、新しい団体や新しい事業が次々に出てくれば、委員もワクワクしながら採点に臨めると思う。提案されたどの事業を採択し、どのように地域を盛り上げていくかという気持ちに委員も地域住民もなってくると思う。このあたりが地域活動支援事業や地域協議会に対しての意義がどうなのかと考えてしまう部分である。掘り下げることの良いと思うが、自分としては1時間でも多く自主的審議を進めたいと考えている。

**【飯野会長】**

本日出席の委員全ての意見を聞くことができた。意見交換であるため、どのような方法や意見があるのかを聞くだけでも意味があると考えている。最終的には次年度に向けてルール等をいずれ決めていきたいと思う。

**【田中主事】**

この場で決定できるのであれば、年明けに協議予定である次年度の採択方針決定の際に協議事項が1つ減らせることになる。

**【飯野会長】**

次年度は委員の改選期であるため、今期委員がそこまで拘束して良いものかと思っている。

**【横川委員】**

確かに次年度については懸念される部分もある。しかし、次年度は協議会委員が改選されるから知らないという訳にも行かない。このような線引きであるといった太い線を一応作っておき、詳細は次期委員で検討としても良いと思っている。次年度以降は次期委員の好きにしてほしいという訳にはいかない。

**【飯野会長】**

そういうことではなく、この場ではっきりと次年度の採択方針等を決定してしまうことはできないと思っている。

**【建入委員】**

決めることは出来ないが、少なくとも事前説明会の段階でこれまでどのような審査方法で決定して来たのかを周知すれば良いと思う。

**【飯野会長】**

今年度の委員でこの様な話し合いをしたのは良いが、次年度の委員がこのとおりのやり方とすることではない。

**【田中主事】**

次年度は委員改選だが、高土区地域協議会では地域活動支援事業はこのような減額方法としているという基準を持つことも1つの手段であると思っている。提案者側としても評価が高ければ希望通りの申請額を補助される可能性が高くなると考え、理解もしやすい。また次期委員に改選されるタイミングが4月であるが、次年度も地域活動支援事業があった場合、選任後すぐに地域活動支援事業の審査に入ることになるため、制度等も理解出来ていない委員も多いと思う。そのため参考となるものがあると分かり易いと思う。ただし、その基準を高土区地域協議会のルールとするか、参考とするのかの違いである。

**【横川委員】**

前期委員の決定方法として参考にしてもらい、詳細等は次期委員が決定するかたちを取ってはどうか。

**【飯野会長】**

冒頭からきっちりと決定し、次年度に必ず引き継がなければならないということではない。意見交換の場での内容を次期委員に引き継げば良いと考えている。これまでに出了意見を取りまとめ、今後の協議会でお知らせしたいと考えている。

**【田中主事】**

次年度の採択方針を決定する際に、今回の意見を改めて確認し、最終的に取り入れるかを決定したいと考えている。

**【飯野会長】**

以上で次第3 議題「(1) 地域活動支援事業について」を終了する。

次に次第3 議題「(2) 自主的審議事項について」に入る。事務局に説明を求める。

**【田中主事】**

- ・資料3に基づき説明

**【飯野会長】**

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

協議に入る。資料に記載のとおり委員から事務局に対して、講師に関する意見がなかったため研修を行う必要があるかについて協議する。これについて意見を求める。

**【横川委員】**

資料3の目的に委員の見識を広めるとの記載があり引っかかっている。自分たちはよくスキルアップ研修等を受講するが、個人がいくら技を磨いても拡散しなければ、一個人の見識であり意味がないものになってしまう。それをどのように広めていくのが問題である。例えば、協議会委員が講演等を行うのであれば良いと思う。しかし、個々が見識を高めても意味がないように思う。それよりも小さなことからコツコツと地道に取り組んでいった方が良いと考えている。だが、研修を行うこと自体を否定している訳ではない。

**【飯野会長】**

具体的ではなく抽象的な話ではあるが、講師を招へいしなくて良いということか。

**【横川委員】**

そういうことではない。委員の見識のみを広めても意味がないということである。

**【飯野会長】**

しかし、見識を広めなければ何も分からないままである。地域の問題である空き家問題も以前の協議会にて、上越市の空き家バンクの存在を知ることができた。何かのタイミングで学ぶことができなければ、知らないことが多いままになってしまう。学んだからといってすぐに広めることはできなくとも、知っていればいずれ役に立つ場面が出てくると思う。知らない世界を知ること大切だと自分は考えている。

**【横川委員】**

他の地域協議会でも視察研修を実施したとの話を聞くが、視察した感想を自分以外から広められているのか疑問に感じている部分もある。単純に楽しかったとは聞いてもその後の話は一切ない。いくら他地区に出向き、良い事例を視察しても行動に移すことができなければ、いくら見識を広めても意味のないものになってしまう。しかし視察研修を実施しないよりは、実施したほうが良いとは思っている。

**【田中主事】**

研修後に何をするのかということか。

**【横川委員】**

そうである。

### 【青木副会長】

今期協議会委員の任期中に様々な話が出たが、実際に具体的な行動には辿り着けなかった。その状況の中で他の成功事例を聞くことで、今後のヒントに繋げるために今回講師を招へいするということだと思う。議員に例えても、何も政策等が進んでおらず人数ばかりが多く感じる時もある。しかし、何か良い案が出てくる可能性に賭けて期待している部分もあると思う。小さな地域協議会の中で意味がないとは言わずに勉強することも良いと思う。少しでもヒントになるようなことがあれば、やるべきであると思っている。

### 【小林委員】

自分は2期連続で協議会委員をしているが、8年間で実施できたことは何もないように思う。唯一、実施したことは高士ルミネである。しかし、それも地域活動支援事業が無くなくなった場合、自己資金の蓄えがないため無くなってしまうことも考えられる。正直、古い家屋・畑や田んぼ、自然が豊富といっても、都会の人はもっと山奥の古い家に魅力を感じる。高士区のような中途半端な場所には何の魅力も感じてくれない。自分の実家が街中にあるが、何の魅力もないために未だに空き家となっている。高士区のような、何もないような地に都会の人が来たとしても、年配の方が多いため、人口が増えることはない。研修を実施するとしても、高士区では何を求めているのかも分からず、意見も出ない状況であるため、研修は無意味なことであると思っている。小学校が合併し、山に住んでいた家族が高士区に降りてくるのであれば良いと思う。正直言って、他から見ても現状の高士区には魅力がないと思う。見に来る分には良いかもしれないが、移住するまでには至らないと思う。

### 【建入委員】

市で「ふるさとワーキングホリデー」を実施しており、岩の原葡萄園に都会の人から来てもらい就業する事業がある。趣旨としては、地域住民との関係・交流を持つことであり、現在、高士区で問題となっている打開策・方策の1つになると思っている。講師の招へいについては、現状の手詰まり状態の中での打開策として提案されたものである。その為、講師から話を聞くことはあるべき姿であると思っている。

### 【日向委員】

4年間の任期中に、最終的な結果や形を残すことが出来なかったと感じている。4年間、同じことを堂々巡りしていたように思う。本当であれば今年度何かしらの形を残

したかったが、実際には何もできていない。講師を招へいすることは人生の勉強としても良い事だとは思いますが、その時間を利用して別のことをした方が良いと考えている。現在の協議会委員のメンバーで取り組める期間は限られている。少しでも何かしらの形に残せるような方向に持って行きたいと思っている。

#### 【細谷委員】

何か形に残すと言われてしまうと、日向委員の意見の通りである。だが、実際に何が出来るのかは疑問である。

#### 【横川委員】

厳しいことをいうと反発を買うこともあるが、逆に厳しいことをいうからにはそれなりの想いがあると思う。ただ踏みつけるのではなく、這い上がることを期待して踏みつけていると思う。高士区では研修に行っても何もしないと言われるのではなく行動に移せる人材が集まってくれることを期待したい。

#### 【横山委員】

講師の招へいについては、委員の見識を広めることが目的であれば自分も必要ないと思っている。ここまで迷走している状況であり、確かに高士区には何の特徴もない。しかし、何をすべきなのかが分からず、行動にも起こせずアイデアも出てこない状況である。そのため、実践としてすぐに活用できる講師を求めている。ただ勉強をするためだけの講演等であれば時間の無駄になってしまう。現場に則した実戦経験のある講師から現状の高士区を見てもらい、少しでも今後についてのヒントが貰えることが理想である。今のタイミングで、この地域と人口で何をやる必要があるのかを教えてくれる講師が理想である。本来であれば地元の間人間が考えることが1番ではあるが実際には出来ていない。自分は様々なまちづくりに関わる団体等を見てきたが、それらを見て思うことは「若者・ばか者・よそ者」がキーワードになると考えている。実際に強い旗振り役がいないと物事は起こってこないと他を見ていても感じる。強い旗振り役は「よそ者」の確率が高い。外から来た人間は、地元の間人間よりも地域のことを客観的に見やすいと思う。実施に外から来た自分から見ると、十分に高士区には魅力があると思っている。しかし、旗振り役がいなければ、行動に移すことは厳しい。高士区には他の地区と比べても様々な多くの団体があり、昔からの住民が地盤を作って来ている。そこに加えてわくわくするような新しい団体やイベント等の新しい何かが起こるきっかけがないと何も変わらないと思っている。確かに高士区は他か

ら移住してくる人が非常に少ない。最近、板倉区に新しいカフェが出来た。店主は静岡県出身であり、山小屋のオーナーは長野県の人である。板倉区の住民が地盤を作り、そこに入ることが出来た。そのような外から人を引っ張って来る力のある旗振り役がいる。カフェは古民家というよりも古い倉庫の様な建物であり、冬場も同じように営業ができるのか不安に思っている様ではある。先日 200 人規模の集まりの場で、カフェがある地区の町内会長が参加者 1 人 1 人に盛り上げてあげたいから行ってほしいとチラシを配っていた。この様に新しい風が入ると、地域住民も応援したい気持ちになる。今後、空き家を利用して高土区に移住を検討している人向けのお試しシェアハウスができたとしても、シェアハウスを企画し運営する人材が必要になる。しかし、そこに時間や情熱をかけられる人間が地元にいるのかが問題になってくる。実際に自分も計画したいと思っても、集中的に費やせる時間が足りない。就労者であれば、更に時間は限られるためジレンマを感じると思う。高田地区でまちづくりに奔走している人で就労している人も多いが、熱意がなければできないことではない。高土地区で考えると地域協議会・地域活動支援事業も含めて、どうして良いのか迷走している状態である。そのため、改めて高土地区の魅力等を気づかせてくれるような講師を選定したいと思っているが講師料の問題もあるため難しい。

#### 【飯野会長】

意見をまとめると、積極的に講師を招へいすることに消極的な意見もあったが、何もしない訳にもいかないとの意見もあった。

#### 【横川委員】

昔から「隣の芝生は」とよく言うが、三和区や清里区は良くやっていると思い、本当に熱意があると思う。三和区は次々と店やイベントを立ち上げている。全てが地元の住民ということではなく、外部からの人間が関わっていることが多い。それを見ると羨ましく思い、高土区でも何かできないものかと考える。せめて高齢者だけでも盛り上がる企画を考えはするが、実際には具体的なものが浮かんでこない。そう考えると講師を招へいすることも 1 つの手段であると思う。色んな人と色々な話をするのが大切であり、話の中から何かを見つけていければ良いと思う。

#### 【飯野会長】

昨日、桑取の古民家カフェ平左衛門に行ってきた。1 週間に数日のみの営業ということもあって、地域全体が盛り上がっている印象はなかった。登山客が立ち寄るには

良い場所だと思った。古民家カフェがあることによって地域全体が発展するようには感じなかった。三和区のように個人で営業している訳ではなく、大きな支援団体が付いて活動している。猿供養寺は支援団体が付いているのか、また公の資金が入っているのか不明である。三和区についても個人が自費で立ち上げ活動している。桑取の古民家カフェについては公の資金というより、支援資金があって営業している。講師を招へいするのであれば、新たな活動を立ち上げた人物や三和区の店を開いた人物等の実際に動いている人材としてはどうかと考えている。何もせずに周囲の成功例を見ているだけではなく、成功者のアイデアを盗んでも良いと思う。

#### 【横山委員】

店を開店したからといって、繁盛しているとは限らない。最近は多くの店ができており、市内では平地以外での活動が目立っている。せっかく開店しても、実際に店に魅力がなければ人は集まらない。そのため様々な成功事例を知っている人物を講師に選定してはどうか。

#### 【飯野会長】

以前、安塚区の朴ノ木に移住してきた人から空き家問題についての話を聞いた。朴ノ木は、標高は高くないが町場から離れたところにあり2軒から3軒程度しかない集落である。便も悪いと思うが、そこを好んで移住してきたとの話である。そのような立地を好んで移住を考える人もいるが、高土区にはそういった特徴的な所が無い。どうしてもここが良いといった何かがなく、全て一緒である。

#### 【横川委員】

確かに深い山がある訳でもなく、深い谷がある訳でもない。しかし自分は高土地区が好きである。

#### 【横山委員】

何かしらの仕掛けが必要であると思っており、店が1件できただけでは意味がない。例えば店が1軒でき、最初は新聞に取り上げられ集客もあると思う。しかし、継続的に応援してくれる人は限られる。どこも同じだと思うが、支えたいと思っているのは地元住民がほとんどだと思う。1軒の店ができて、実際に地域の活性化に繋がるのかというと難しい。岩の原葡萄園があり、周りに何軒かの拠点や店がある。空き家が何軒かあり空き家を利用して子どもたちが遊べ、これらを周遊できるといった何かしらの仕掛けをするためにはアイデアや知識が必要である。逆に特徴が無いことを逆手

に取ってできることはないのか、あれば知りたいと思っている。素人ではなかなか答えは出ないと思う。講師については、本当に良い講師がいた場合は今期ではなく、次期委員向けに招へいしてはどうか。最初の段階で情報を入れてからのスタートした方が良いと思う。高士区だけではなく、どこの地域も苦戦していると思っている。どこの地域も移住者を望んでおり、人口減少もあるため旗振り役を欲しがっていると思う。その中から飛びぬけたいのであれば、何かしらの仕組み作りや仕掛けをしなければ難しいと思う。

**【横川委員】**

自分が住んでいる町内も人が増えるのは、田植えと祭りの時期のみである。近年は大阪の人が祭りを好んで来てくれている。若い人でも祭りに合わせて予定を変更し、参加してくれる人もいる。他の町内会でも祭りがすごいところがある。そのように考えると自分の町内会も少しずつ変わりつつあるように思う。色々な人が協力し合っていると思う。

**【横山委員】**

小さな部分に焦点を当てると色々な魅力が出てくるように思う。それを発信することが全体的にできていないため難しい。

**【飯野会長】**

講師を招へいし、研修を行うのか、次期委員に変更後の次年度以降に繰り越すのかを決定したい。次年度以降に繰り越す場合、年頭に地域活動支援事業もあるため、それなりの時期になってしまう。

**【田中主事】**

次年度以降に研修を実施する場合、地域活動支援事業の審査が終わった7月以降に提案し、実際に講師を招へいするのは早くて9月から10月頃になると思う。

**【青木副会長】**

今回の委員だけではなく、次期委員の候補者を交えて講演を受けても良いと考えている。これまでの3期で思ったような実績等は残せなかったとの反省を込めて講師を招へいするとの思いを託し次期委員に引き継ぐことができれば意味のあることになると思い実施する必要があると思っている。

**【飯野会長】**

資料3に諏訪区・新道区でも講演を行っているとの記載があるが、この講演は協議

会委員のみで行ったのか。

**【田中主事】**

諏訪区と新道区で講演を行った講師は、ファシリテーターとして会議の進行等に心得のある講師である。新道区では任期 1 年目から 2 年目に協議会の進め方に苦慮していた背景を踏まえこの講師を選定した経緯があり、どのように協議会を進めて行けば効率的に会議を進めて行けるのかを学んだ。諏訪区については、移住促進について自主的審議事項として協議していた際に講師を招へいしたと聞いている。上越市近辺にて活動しており、色々な企業・団体に関わり事業等も把握している講師である。諏訪区と新道区では講師を招へいした目的は違うが、講師を招いたことで諏訪区の移住促進諏訪の会のように何かしらの形になっている事例もある。

**【飯野会長】**

なかなか話が進まないことが高土区の良い所でもあり、悪い所でもある。今期の協議会委員だけではなく、広く声掛けし地域住民からも講演に参加してもらってはどうか。

**【横川委員】**

本当に効く価値のある講演であれば良いと思う。

**【飯野会長】**

それは講演を聞いてみなければ分からない。例えば何もせずにあれもいない、これもいないでは全ていないことになって終わってしまう。それぞれ捉え方も違うため、良いと思う人もいれば合わない人もいると思う。だからといって、最初から行わなくても良いということではないと思う。高土地区の地域協議会は設置されて 10 年が経過している。10 年経過しても堂々巡りの状態である。講師を招へいすることが良いことかどうかは実施して見なければ分からない。しかし、これまでは行ったことがないため、少しは前に進むのではないかと考えている。何もしなければ、ますます進めないことになる。

**【横川委員】**

確かに 1 つの案だと思う。ただ町内会長に頼まれたから参加するでは意味がないため、人数集めのような条件は避けたほうが良いと思う。チラシを見て内容を理解した人が参加することに意味があると思う。

**【青木副会長】**

どのような講師を選定し、どのような人を対象に講演を行うのかが大事である。

**【飯野会長】**

地域・町内会の割り当て方式のようなことはしない方が良くと思う。しかし、どのような講師を招へいし、告知するのかが問題となる。全国的に有名な講師を招へいしても、何も告知しなければどの程度の参加者が集まるのか分からない。

**【田中主事】**

地域協議会が行う研修の第1の目的は、委員が自主的審議等に得た知見を活かすことにあるが、興味のある地域住民が多く参加すれば盛り上がりは出る。しかし、参加人数を増やす為だけに、興味のない人を集めても本来の目的から外れてしまうことになる。研修は講演を聞いて、話の中に自ら価値を見出してもらうことであり、自ら価値あるものにすることが成果である。地域住民に周知した結果、参加者が委員のみであっても、参加した委員が他に話を広めることで興味のある人を増やすことも成果だと思ふ。

**【横川委員】**

参加人数が少ない方が、内容の濃い話ができる場合もある。

**【飯野会長】**

講師を招へいするかについて採決を取って良いか。

**【建入委員】**

まず、今年度を実施するのか、次年度以降に実施するのかを決定してはどうか。

**【青木副会長】**

次年度以降の予定は、今期委員が決めることはできないと思ふ。

**【横山委員】**

今期の任期中に1度招へいし、もし反応が良ければ次年度以降も招へいしてはどうか。次年度以降次期委員の任期中に招へいするとしても、次期委員がどう判断するのかは分からない。

**【飯野会長】**

次年度以降の話は次期委員が決定することになる。次期委員の中に良いアイデアを持った委員がおり招へいする必要が無いと判断する場合もある。また、今年度招へいした講師が良かったと判断した場合は次年度以降も招へいして良いと思ふ。逆に良くなかった場合は別の講師を選定しても良いと思ふ。

採決を取る。今年度中に講師を招へいすることに賛成の委員は挙手願う。

(賛成多数)

賛成多数により、講師を招へいすることに決定する。

次に講師の選定について協議していく。まず事務局から提案のあった候補の他に、候補者がいる場合は発言願う。

【青木副会長】

上越市内の地域協議会の中で、同じような悩みを抱えながらも何かしらの取組み等を行っている地域があれば代表者に来てもらってはどうか。以前にもこの様な話は出たと思うが、なかなか現実的にはなっていない。

【飯野会長】

三郷区は高土区では話が進んでいると判断し、以前に合同の研修会を実施した。他の地区で先進的な地域があれば講師として様々な話を聞ければ良いと思う。

【田中主事】

協議会で話していた内容が実際に形になったと考えると、個人的には諏訪区も良いと思う。地域協議会の自主的審議事項から活動へと自立している。しかし、諏訪区で行っているからといって、高土区ではこうやった方が良いといったアイデアは望めないと思う。諏訪区には諏訪区の事情があって活動している。

【飯野会長】

諏訪区では移住促進の活動を行っており、現時点ではまだ大きな成果は得られてはいないが地域として盛り上げてはいる。確実に高土区よりは進んでいると思う。移住促進諏訪の会の代表を招へいしても良いと思う。

【横山委員】

諏訪区にも旗振り役がいると思う。やはりそこが重要である。高土区に同様の人物がいなければ難しい。

【田中主事】

その人の熱意を聞くことも良いと思うが、移住は高土区の自主的審議のテーマとは異なっている。活動内容や視察結果を聞くに留まってしまうため、高土区でのアイデアには繋がらない可能性が高い。

【飯野会長】

移住の取組については高土区よりも数段進んでいるため、1つの事例として取組を

知ることは良いと思う。

講師を招へいすることは決定したが、誰を招へいするかは決まっていない。

**【横川委員】**

必ずしも本日、講師を選定しなければならないのか。

**【田中主事】**

必ずしも本日決定する必要はないが、後になればなる程に研修時期は遅くなることになる。本日選定することができれば、早くて9月頃の研修実施が可能と考えている。

**【飯野会長】**

事務局から提案のあった候補の他に、候補者がいる場合は発言願う。

**【横山委員】**

先程も確認したが意見が出なかった。リストにある1人の講師は講義を何度か受講したことがあるが、内容はとても良いのだが話が非常に難しい。内容は非常に良いが話が難しいために1度で理解することは困難である。言葉も難しく内容も難しいため適していないと思う。

**【田中主事】**

もう1人の講師候補者は、どちらかと言えば実践している側である。

**【横山委員】**

今、SNSを見てみたが破天荒な印象の人である。

**【田中主事】**

実際にどのような人かは掴めておらず、どのような講演をするかまでは把握していない。

**【横山委員】**

リストにある候補者は講師料的には招へいは可能なのか。

**【田中主事】**

過去の実績や所属団体から考えると招へい可能であると考えている。実際の講師料の詳細までは把握していないが、民間のコンサルタントに比べると交渉の余地はあると認識しリストに記載している。

**【横山委員】**

予算はいくらか。

**【田中主事】**

2万円を想定している。

【横山委員】

1回2時間程度か。

【田中主事】

そうである。

【横山委員】

交通費はどうなるのか。

【田中主事】

交通費は別途支給である。地域協議会の予算は例年の実績を見て配分されており、1区の日安額が2万円程度となっている。平均して1回の講師料2万円プラス新潟往復分の交通費を予算として計上している。

【飯野会長】

改めて講師を選定したいと思う。リストにある2人は高土区の自主的審議のテーマと違う様であるため、別で再選定したいと考えている。個人的な意見としては、昨日今日のレベルで講師を遠方から招へいしアドバイスを受けても、実際に高土区に住んでいる委員が頭を悩ませている状況であるため選定は難しいと思っている。改めて正副会長と事務局で検討の上、決定したいと考えている。以上で次第3議題「(2) 自主的審議事項について」を終了する。

次に次第4「その他」の「次回の開催日」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・次回協議会の説明

【飯野会長】

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：9月3日（火） 午後6時30分から 高土地区公民館 中会議室
- ・内容：自主的審議事項

【飯野会長】

その他、事務局より何かあるか。

【田中主事】

講師の選定についてである。名前だけでも構わないので情報提供を願う。

【飯野会長】

他に発言はあるか。

(発言なし)

- ・会議の閉会を宣言

**【青木副会長】**

- ・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。